

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己評価 (4点満点)	学校関係者からいただいた 評価・意見等	改善策 ※左欄(学校関係者からいただいた評価・ 意見等)を踏まえた改善策には、下線
心豊かに 神戸の子供を育む	夢をはぐくみ ともに輝く 八多っ子	自ら学び、ともに 伸びる喜びを知り、進んで問題解決しようとする子供を育てる。	八多スタンダードの活用	全教職員が共通理解し、統一した指導を行うべきことを定めることにより、学習に集中する環境を整えてきた。持ち物の乱れ等が、学校生活の崩れにつながるのを、毎年全教職員で検討し見直している。特に、基礎学力の定着のため、学習ルールの徹底など日々の積み重ねを大切にしてきた。より一層の活用を図っていきたい。	3.4	服装や持ち物の乱れは、学校での生活の乱れにつながると思うので、どの先生に聞いても同じように指導してもらえるのは、子供も納得しやすいだろう。身だしなみについては、親も家で話しているが、先生に言われた方がよく聞く面もあるので声をかけていただければありがたい。	学年が上がったり担任が代わったりしても学習の決まりや持ち物のルールが確立していれば、児童は安心して学校生活を送ることができるので、毎年スタンダードを見直しつつ指導を徹底する
			学ぶ力・生きる力向上 支援員による複数指導	様々な配慮を要する児童に寄り添い、授業での学習や学校生活面での支援に力を入れてきた。学級の状況に合わせて支援の人員配置にめりはりをつけた。児童一人一人に応じたきめ細かい指導を行った。	3.9	児童数が減っているのは確かに心配である。少ない児童数ではあるが、その分一人一人に手厚く支援の手を入れて欲しい。	基本的に、5、6年生は学習支援教諭、3、4年生は学ぶ力・生きる力向上支援員による複数指導や少人数指導、個別指導等様々な学習形態で指導を行ってきたが、可能な限り支援体制を厚く組む、学力向上を図っていく。
			力のつく授業の推進	令和2、3年度の2年間、八多中学校とともに市教委の「力のつく授業」推進指定校となった。授業改善推進校として、「小中連携したコミュニケーション能力の育成」をテーマに研修に取り組んできた。教科指導課の支援を得ながら、3、4年生の外国語活動、5、6年生の英語科教育に重点を置き外国語に親しみスキル向上を図ることで、コミュニケーション能力を高め、本校の特色を高めることに力を注いでいる。1、2年生もALTの協力で独自の教材を作成し、英語に触れる時間を朝の学習タイムに設定するなどして、中学年につながるようにしている。コロナ禍ではあったが、子供たちの学びの姿から成果が上がっていることが見て取れる。令和3年度は、一段と高まった子供たちの姿を研究発表の場で見ていただきたい。	3.6	GIGAスクール構想、今の子供たちは楽しみにしている。先生は大変だが取り入れて大いに活用してほしい。また、今までの授業の良いところと融合させて指導してほしい。先生たちの苦労はよく分かるが、子供たちの学力を高めるため、頑張っていたきたい。	令和3年度も引き続き八多中学校とともに市教委の「力のつく授業」推進指定校となっている。「小中連携したコミュニケーション能力の育成」をさらに推し進めていく。また、教科指導課の支援を得ながら、外国語活動・英語科教育に重点を置き外国語に親しみスキル向上を図ることでコミュニケーション能力を高めることにも、力を注ぎ、本校の特色を高めていきたい。1・2年生の取組も継続していく。ICT機器やGIGA端末は、これまでも積極的に活用しているので、さらに効果的な活用法を研究していきたい。
心豊かに 神戸の子供を育む	自他の心と体を知り、優しい心とたくましい体を自ら育もうとする子供を育てる。	健やかな体の育成	今年度も毎火・木曜日に全校生で縄跳びを練習する時間を設定した。リズム縄跳び運動を取り入れたりと、2月にはなわとび検定を行ったりして、運動を習慣化し、体力の向上を図った。個々の技術の向上が見られ、全体としてのレベルも上がってきた。これまでの継続した取組のおかげで、臨時休校の影響でスタートは遅れたにもかかわらず、運動会でも習得した技術を披露することができた。授業時間増加のため放課後がほとんどない中でも、スポーツ活動としてドッジボール・陸上競技を行った。	3.8	運動会での全校生の縄跳び演技は、八多小学校の特色だと思う。全校児童が、これだけのことに取り組んでいることが、よく分かった。	なわとびは、本校の特色ある取組として、非常に効果をあげている。より一層のレベルアップを図るため、次年度も継続して取り組んでいく。スポーツ活動に関しては内容を精選し継続していく。子供たちの状況を見極め、つきたい力を明確にし、体育学習の年間指導計画を見直し、改善を図っていく。今後も八多小の子供たちが、たくましく育つよう、特色ある取組を大切にしていきたい。	
		豊かな心の育成	日常から規範意識の育成に力を入れるべく、道徳や学級活動、体験活動の充実で心を耕すことに力を入れている。指導の根本には、命・人権を大切にすることを据えている。今年度は、コロナ対策を徹底しながら、将来の教科担任制も見据えて異学年との学習活動も多く取り入れ、思いやりの心を育む場を設定している。これらの取組により、多くの教職員で子供たちの育ちを見守ることにつながっている。昨年度から始めた、心が温かくなる「ほかほか言葉」をお互いにかけてあうボカボカツリー活動も実施しているが、その意義が薄まらないように、活動の価値づけや指導の継続が肝要であると考えている。	3.5	思いやりの心が育ち、子供たちの言葉遣いがよりよくなっていけばよいと思う。	今後も、これまで同様に道徳の授業を充実させ、心を耕す授業を仕組み続けていく。また、よい行いには機会を逃さず、適切な評価・声かけをすることによってその効果を高めよう。そのためにはボカボカツリー活動の意義をより一層共通理解することで、これまで以上に児童に働きかけ、温かな「ほかほか言葉」を広める活動を継続していく。	

		<p>八多の伝統文化の八多音頭を踊る会 八多太鼓の練習 米づくり 豆の栽培 サツマイモの栽培 みそづくり</p>	<p>例年ゲストティーチャーとして、地域の方をお招きして、八多太鼓・八多音頭を踊る会等の郷土学習を行い、郷土愛を育む場を設定してきた。今年度は、コロナ禍により、八多音頭を踊る会は実施できなかったが、4年生の八多太鼓体験学習や3年生の環境体験学習では、地域の方々にご支援いただいた。特に3年生は、地域の農家の方や婦人会、JAなどの多大なるご指導ご協力のもと、米作りや豆の栽培、味噌づくり等、郷土に根ざした学習を展開することができた。今後も八多の特色ある教育活動として維持継続していくことが望まれる。</p>	3.6	<p>地域として、地域活性化をはかり、八多町の文化を守るために努力している。学校の教育活動には、今後も協力していきたい。</p>	<p>今年度は、コロナ禍により制限されることが多かった。令和3年度は、状況に合わせて、可能な活動に取り組んでいきたい。地域の方をゲストティーチャーとして様々なことを学ぶことは非常に有意義なことである。八多の中で、大切に守られながら育ち、いずれはこの地域を守っていく存在となる意識を持つためにも、今後も継続させていきたい。</p>
		<p>防災教育での幼小中合同避難訓練 幼小合同引き渡し訓練 1.17幼小中合同避難訓練 防災集会</p>	<p>例年、5月に消防団等地域の方々の協力を得て、幼小中合同避難訓練を実施している。学年に応じて防災に関する様々な体験活動ができていたが、今年度は断念せざるを得なかった。令和3年度は、既に日程も設定しているので、地域と一体となつての活動をしっかりと行いたい。1.17(実施は18日)は、いつまでも風化させぬよう震災関連学習を行っている。</p>	3.7	<p>今年度は実施できなかったが、令和3年度の幼小中合同防災訓練では、起震車を用意できるように考えている。より充実した訓練ができると思う。</p>	<p>地域の防災訓練活動という位置づけもされているので、今後も地域の防災コミュニティの一員として協力して実施していくようにする。体験活動を重視し、自分の命を守るために正しく判断し主体的に行動できる力を育てていきたい。</p>
<p>地域安全・安心と共に子供を楽しい学校を築き、</p>	<p>思いを伝えたい子供たちを高め合える</p>	<p>言葉に関心を持ち自ら話す力の育成を目指す</p>	<p>昨年度より、小中で学校司書が配置されたので、読書活動を進める等言葉に親しむ環境づくりを行いながら、単元を貫く言語活動の推進をしている。今年度は、「単元を貫く言語活動」に重点を置き、「言葉に関心をもち、自ら話す力の育成」を目指すとともに、「小中連携したコミュニケーション能力の育成」をテーマに研修に取り組んできた。教師全員が授業公開を行い、お互いの授業について意見交換を行う場を持ち研鑽を積んできた。</p>	3.5	<p>今の子供たちは、時間があればPC、ゲーム機、スマホを触っているのが気になる。読書に親しむ子供がもっと増えて欲しい。</p>	<p>確実に本に親しむ子供が増えている。学校司書と連携し、様々な教科で図書館を活用する取組が効果的であったため、今後も継続していく。教員は全員毎年授業研究し、お互いに見合いながら研修している。今後も子供たちにより良い授業をするために、「学び続ける教師」であり続けるべく研鑽を積んでいく。</p>
		<p>外国語を通して、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図れるようにする</p>	<p>昨年度まで外国語活動、外国語科の完全実施に向けて研修を行いながら、子供たちが、より外国語に親しみをもちながら語彙が増やせるように、学校掲示を工夫し、生活の中でいつでも英語に接する機会が持てるようになってきた。今年度は、「力のつく授業」推進指定校となり、「小中連携したコミュニケーション能力の育成」をテーマに研修に取り組み、スキル向上を図ることで、子供たちが積極的に英語を話すこと、聞くこと、読むこと、書くことの活動を行い、確実にコミュニケーション能力を高める効果をあげている。今後も指導に工夫を重ねていくことが大切である。</p>	3.6	<p>令和5年度から義務教育学校になると聞いた。PCを使った学習もあり、英語もありで子供たちも先生方も大変だとは思いますが、これからの時代を生きる子供たちには、必要な力だと思うので、しっかりと学べるように指導していただきたい。</p>	<p>令和3年度も「力のつく授業」推進指定校であり、研究発表も行う。英語教育を八多小中学校の特色として、引き続き研修に力を入れていく。英語をツールとして、コミュニケーション能力の向上を図り、外の世界に出ても自分を表現できる子供たちを育てていくことに、継続して取り組んでいきたい。</p>
		<p>いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)</p>	<p>八多小学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめに関しては、どんな小さな事案に思えても、必ず第一報を迅速に管理職に入れ、早急にいじめ問題対策委員会を開き、対応することの徹底を継続してきた。今年度は、週1回を基本に校内いじめ問題対策委員会を行い、事案がない時にこそ、アンテナを高く広くして未然防止に力を注いできた。全職員で情報共有・共通理解・同一歩調・みんなで指導を確認している。事案発生時には、指導・保護者への説明等は、複数で行うことを基本とした。学校の危機意識を高めるとともに、「いじめの定義」「学校が講ずべき措置」等について保護者・地域に伝え続けて、理解していただくことが大切である。</p>	3.7	<p>子供たちは、お互いをよく知っており、まとまっていると思う。しかし、思いやりの気持ち、相手がどう思うかを想像するのは大切な力だと思うので、教指導していただきたい。</p>	<p>いじめ事案には、小さなことに見えても油断なく細心の注意を払って対応していく。学校が重要事案として考えていることを児童・保護者に知らせ、いじめアンケートから分かる小さな芽を見逃さず、いじめは絶対に許さないという姿勢でいじめ防止の取組を進めていく。学校の危機意識を高めるとともに、「いじめの定義」「学校が講ずべき措置」等について保護者・地域に伝え続けて、理解していただくことが大切である。何より、子供たちにより寄り添う関係作りをしていくことこそ大事にしたい。</p>
		<p>業務改善・働き方改革の推進</p>	<p>職員が健全な心身を維持して、ゆとりを持って子供たちと向き合い、充実した学習指導、生徒指導を行うためには、超過勤務を減らしていくことが大切であると共通理解している。今年度は、コロナ禍により適当の授業時間が大きく増えているが、意識の変化もあり、超過勤務時間は、前年度より減少傾向に向かっている。有給休暇を10日以上取ることも同様に進めてきた。職員会議の時間短縮、業務の見直しを継続していくことで働き方改革を進めていかなければならない。</p>	3.2	<p>働き方改革というのは、よく分かる。先生方も体を壊さないように仕事をしないとイケないのもその通りだと思う。しかし、先生が、休日の地域行事に出てこれられないということで、顔が見えない。子供たちによりよい指導をするためにも、方法を探って欲しい。</p>	<p>地域行事には、可能な範囲で管理職がかかわっている。他の教員が、子供たちと向き合う時間や授業の準備といった本来業務の時間を確保するためにも業務改善・働き方改革を進めていかなければならない。様々な見直しを進めてきたが、さらに何ができるのか、教師がきめ細やかに子供に寄り添って指導するために様々な活動の見直しを進めていきたい。</p>

<p>ホームページの更新頻度の向上 (新型コロナウイルス感染症関連)</p>	<p>学校の新型コロナウイルス感染拡大防止対策に関する不安や疑問を払拭し、臨時休校により増加した授業時間中の子供たちの様子をより詳しく知らせるために、昨年度より格段にホームページの更新頻度を高めた。コロナ対策の変更やその意図、行事への取組についてもメール配信とともにホームページでも周知した。行事予定についてのお知らせは学校だよりで一本化し、学年だよりでは、学級での様子について詳しくお知らせするようにした。各アンケート結果等については、「はぐくみ」で保護者・地域の方へ発信した。</p>	<p>3.8</p>	<p>今年度は特にホームページの更新が多かったように思う。続けていただきたい。</p>	<p>今年度は、ホームページ更新が増え、内容も充実したものとなった。日々の教育活動の様子、教育方針や活動の意義など発信してきた。また、教育評価にかかわるようなアンケート結果および考察については、より状況にあった内容にした「はぐくみ」として発行し、学校への理解を深め、ご協力を得られるようにしていきたい。今後も継続して、発信していく。</p>
<p>幼小中の連携 まっすぐ育て八多っ子 11か年プラン</p>	<p>連携行事を中止せざるを得ない中、プログラムや実施方法を見直すことによって、短縮した形で幼小中合同運動会を行うことができた。演技は減ったが、その分子供たちの集中力も持続し、きびきびとした演技を披露し、気持ちの良い観覧姿勢も見せていた。子供たちの姿を通して、コロナ禍ではあったが、保護者・地域の方々に八多学園11年の指導・連携の成果を見ていただいた。幼小合同音楽会は、ミニコンサートの形で、幼・1・2年、3・4年、5・6年と三部に分けて実施した。地域の方に鑑賞していただくことはできなかったが、様々な感染症対策が必要な中実施し、事後の保護者アンケートでは、高い評価を得ることができた。幼小中合同授業参観・小中合同書初め展も実施した。今年度、八多中学校とともに「力のつく授業」推進指定校となった。授業改善推進校として、「小中連携したコミュニケーション能力の育成」をテーマに研修を進めるべくより一層連携を進めている。保護者・地域の方には、気が緩みがちなバス登下校中の子供たちの安全のため見守りにもご協力いただいた。</p>	<p>3.5</p>	<p>コロナ禍により、他校では様々な制限があったと聞いているが、八多では運動会もできた。八多らしさ、八多のよさを感じさせてもらった。児童数が減り続けているのは不安ではあるが、義務教育学校になるのはありがたい。明るい将来が見える。同時に中身が大事なので、どんな学校を作っていくのか、地域も協力していきたい。保護者・地域・学校の連携は大切だが、どんな連携ができるのか。あってほしい子供像や小規模校のよさを生かした教育、育みたい温かな心など、学校だけではなく、私たち保護者も甘えるのではなく、真剣に考えていかないといけない。そのためにも、より一層の情報発信をお願いしたい。</p>	<p>義務教育学校に向けて、小中の連携強化を進め、八多学園9か年で、これからの時代を生き抜く力を身に付け、思いやりの心を育む活動を推進していきたい。令和3年度は、土台づくりでもあり、大事な年であると受け止めている。また、来年度は、保護者や地域と育てたい子供像や目指すべき教育のビジョンを共有するための学校運営協議会の設置にむけての一年になるので、これまでに以上に保護者・地域のご協力を得ていくように更なる情報発信をして、働きかけていきたい。コミュニティスクールを推進し、義務教育学校へとつなげていきたい。</p>